

第百三十一師田部重雄隊警隊累丁

年月日

概

要

部隊固有名称

第百三十一師田部重雄隊

種別号

秋水一七八八八部

縮本年月日

昭和ニ〇年四月ニ〇日

縮本地

中華民国広東省曲江県韶州

縮本要

略記

部隊は軍令陸甲ヤニ〇号に基き、広東省韶州に於て編成業務に着手す。時に韶州隊本部に在りたる人員はヤ四十師田部重雄隊要員として転居せる隊長以下五一名にして各兵田より差出せられたる人、再後悉数はよく分敵しありたるのみならず、当時於ける、戦場の状況韶州への到着は容易

1938

昭三、四二〇

昭三、四二六

昭三、四二〇

昭三、四二〇

有りしも編成要員の大部分たるヲ七師団よりの転属者及一部他兵団

よりの転属者ヲ湖南省衡陽果衡陽に於て又編成要員の一部たるヲ六一師団

よりの転属者を広西省贛州に於て掌握すると共に夫々一部の兵器、資糧を

受領し詔州衡陽贛州の三ヶ所分隊状態に於て人員のみ編成を完結す、馬匹

及輜重車は湖北省武昌に於て受領し編成定数を充足すべく在衡陽の部隊編

成人員の主力を以て

衡陽を出発し武昌に向い前進せるも途中身取の大命を揮ひ部隊作事案上編

成未完結に終り

渡支年月日

(編成完結年月日)

渡支当初駐屯地

廣東省曲江果韶州

行動概要

部隊は名目上、編成を完結し午後引籠り編成業務の準備に努めありたる也

1939

七一

南京方面への撤退を命ぜらば師団主力と共に行動を開始す。

当時に於ける部隊の状況次の如し

主力部隊百五十四名（隊本部、カニ、三中隊の各主力）

一隊、新陽下り部隊馬匹受領の為武官に前送せる者四七〇名

二隊、贛州四三〇名（カニ一中隊）編成当初より歩兵九五旅団に配属されあり

リ

七一

韶州出発、七月十四日湘粵省、境嶺越

七二五

新陽到着

八一七

湖南省、冷水灘河同地に於て停戦の大命を受領せるも師団の行動は戦術行動にめらざるを以て依然前進を続行す。

八二〇

武官に到着し舟場より先遣せしめたる部隊受領者を掌握し冷水灘河に於て船舶により師団の騎兵及相白軍領に任し安徽省安慶への前送りに努む

八二七

部隊は武官を出発し九二二安慶に到着す。

冷水灘河地に於て中田副の命令指示に基づき集中營生活開始せる。

史内所

昭三三九

安慶出発

三、一

上海着

三一九

上海を出发し同年三月二十二日博多に上陸

帰還し翌二三日部隊を解散す

と
し

767

1941

第一三二師田野戰病院 署丁

年月日

昭和三十七
年四月九

編成 陸令陸甲才十八号に基き左記各部隊よりの転属要員は、中華民国湖南
省、衡陽に乘船仮編成に着手す。

季	担 架		位 位 (含至理部)			階級別 区分	人数
	兵	下士官	兵	下士官	将校		
2	186	2	27	7	8	116P	
			4	1		歩兵隊 八大隊	
			5	1		歩兵隊 五二大隊	
				1		歩兵隊 五三大隊	
					4	歩兵隊 軍務隊	
1	34	2	46	10	8	70P	
3	220	4	82	20	19	計	

概

要

1942

中支外 194

昭三、四、五

昭三、五、一

関東省沼津集結行動（編成完結）

四月十日反響隊を完了せる第一半部は関東省曲江県沼津に集結を命ぜられ
上村部隊長指揮の下に行軍を以て出発、東陽、柳泉、坪石を経て四月三十
日沼津北側五里亭村岸に到着す、而して編成完結は四月二十日行
軍中となりたり。

第一半部 沼津附近の整備

部隊は西相郷に於て駐屯苗嶽山に分明を配置沼津附近の整備に任ずると共
に乳源駐屯部隊に対する糧食衛生材料等の補給輸送に当り、又は兩雄附近

備考	行	
	計	兵
七十師團よりの奮勇者は中華民国江西省贛州にありて野戦病院を所 致中にして之を当部隊に二半部として編成す。	311	81
	5	
	6	
	1	
	1	
	4	
	113	12
	442	94

に出動患者の収容後送に従事せり、

カニ半部

磯州附近の整備

カニ半部要員は依然磯州に在りて病院を開設四ニリを以てカニ三一師団野
兵病院カニ半部の備を完結患者約二百名を収容診療に従事す、
文目下旬師団命令に基き収容患者を数回に分ち部員に後送待機す、

昭三
七三
三九
四

中支東中行動

七三師団命令に基き部隊長の指揮するカニ半部は坪石、湘東、東陽、新陽
長沙岳州道を武漢地区に転進すべく糧秣、住居、材料を轉運車輛に積載、行
軍に依り出発す、新陽地方沿河より列車輸送に依り前進中八月一七日岳
州に於て停戦の詔書を拜せり、尔後依然師団の集結の爲列車に依り武昌に
到着、同地より船に依り八月二八日蕪湖に到着、宿營中師団の集結地を突
破し表裏せられ九月一二日出発、一五日空襲に入るカニ半部は若本渡田
と共に七月一日磯州出発吉水陸、南昌に至る九江に向い前進す、八月一

1944

昭三三九一四
三三三一一

大日、南方四十軒周旋に於て停戦を知るル伯朱結行陣を飛行南昌九江に至
て揚子江右岸正大公館に到り同地より渡河安慶に入る時九月十三日なり。

安慶集申書

九月十四日カニ半部長はカ大旅団安慶患者療養所を引継ぎ翌十五日カニ半
部が到着する及、野戦病院を開設す。ル伯朱患者の収容、治療に作すると共
に部隊の人員掌握に努め復員準備に邁進す。

上海特報

復員の為上海に乘船を命ぜられたる部隊は一部患者療養所要員を残留し收
容患者に回余を侵襲の護送を兼ね二月二日輸送に依り出発す。

二月五日上海着に患者をカ一七三及カ一七五兵站病院に転送、江湾東富舎
に入る三月一二日後発隊同宿舎に到着す。

輸送並（回帰解除）復員式

三月二十二日部隊は同地復員のため乗船を命ぜり同日特別補給船夕嵐に

昭三三三三三
三三三三三
三三三三三

乗船上海港出帆寸三月二十四日博多港上陸候員式を挙行す
陸軍軍医大尉柳田静夫以下二八三名

772-

1946

第三百三十一期 病馬廠 略

年月日	概	摘要
<p>貼付、四、一 " 四、二日</p>	<p>湖南省衡陽に於て編成に着手 編成完結 江西省贛州に於て岩本支隊病馬收容班を引継ぎ病馬廠を開設 病馬廠本廠開設のため江西省贛州出發 病馬廠贛州支廠と改称</p>	<p>廠長 支廠長 陸軍少尉 木村 光生 陸軍少尉 杉本 孝平 陸軍少尉 佐々木 均次郎 陸軍少尉 佐々木 均次郎 陸軍少尉 佐々木 均次郎</p>
<p>六九</p>	<p>本東省韶州着</p>	<p>陸軍少尉 佐々木 均次郎</p>
<p>七一</p>	<p>部隊現駐の正め本東省韶州出發 廣東省韶州に於いて病馬廠海福支廠開設</p>	<p>陸軍少尉 佐々木 均次郎 陸軍少尉 佐々木 均次郎 陸軍少尉 佐々木 均次郎</p>

1947

昭三、七二二	贛州支廠駐のため江西省贛州出發
八四	海橋支廠本廠返及のため広東省韶州出發
八一四	併録韶書発布
八一八	復員下令
九二二	停戦協定締結
九二五	贛州支廠安撫省東流界大公館に於て京廠復員
六一四	本廠安撫省復員
一〇二五	海橋支廠京廠復員
昭三、三三四	内地帰還の爲安撫省支廠出發
三一八	上海着
三二五	上海出発
三三〇	博多上陸
三三〇	除隊召集解除、復員完結

~274~

1948

野戦電信才八中队恩状

年月日	概要	摘要 (協力兵団)
昭三、五、一	動員下令	(仙名)
一、三、三	動員完結	中隊長 八木英小佐
二、二、二	江蘇省李宅上陸	
二、二、九	湖東会戦参加	
二、二、一〇	南京進軍参加	九百十四師団
三、三、七	英湖掃蕩及警備通信	
三、三、八	杭州掃蕩及	
三、三、一七	杭州並英湖警備通信	
四、三、八	徐州会戦参加	六師団 坂井支隊

1950

昭三 五 七 四 三 九	昭三 六 一 三 一	昭三 四 一 一 三	昭三 四 一 一 三	昭三 九 一 一 三	昭三 八 一 一 三	昭三 七 一 一 三
宣旨作戦参加 十四年冬期作戦参加	襄東会戦後の警備並に嶺湘会戦参加	襄東会戦参加	粵漢線掃蕩警備通信	武漢攻路戦参加 瑞昌攻路戦 ^略 参加	九江及黃梅攻路参加 才十一軍才三通信隊長（大久保一徳）大佐の指揮下に 入る。	安慶攻路戦参加
	一四八一甲隊長 坂本清藏中尉と交代	岳州南方地区	才九師団 （瑞昌一三漢洋特司） 才九師団 （瑞昌一三漢洋特司） （瑞昌一三漢洋特司）			

1951

八三	軍令陸用中五号により編成改正
八二四 一三、一〇	官督作戦の身警備並に漢水作戦参加
昭天 一三、二 二、三八	予南作戦参加
三二 去三〇	江北作戦参加
共三五 五三一	江北作戦白警備並に長沙作戦参加
二六、二二 二六、一三 一	才二次長沙作戦参加
七、二 八三三	才二次長沙作戦後の警備並に通洛断線作戦参加
昭天、九、一 八三三、一	断線作戦後の警備並に江北幾級作戦参加
才四師団(新市) 才三〇〇(長安街附近) 才六〇〇(金井附近)	才三師団(南宮一峰川) 才四〇〇(黄栗一東郷) 一七、八一 才隊長 馬場一中尉と才 才三師団(山西共闘) 才三〇 才三師団(山西共闘) 才三〇 (三家橋一官都)

<p>三、一</p>	<p>五、一 五、二 五、三</p>	<p>五、一 五、二 五、三</p>	<p>七、一 七、二 七、三</p>
<p>中二三軍通信隊長（勳章未吉大佐）の指揮下に入る。</p>	<p>南都興漢打通信戦参加</p>	<p>中二十軍通信隊長（現玉光雄中佐）の指揮下に入る。</p>	<p>常德蘇城作戦参加</p>
<p>中十八師団 （梁冒附処）</p>	<p>中四師団 （新橋一岳泰山攻勢 間）</p>	<p>中七師団 （新市、射家）</p>	<p>中三師団 （蕪市、長陽）</p>

1953

中支小 96

六二五	六十四戦斗序列より支那派遣軍戦斗序列（西轄）に編入
六二五	六十七師団長の指揮下に入り中支方面に戦用
八一七	停戦に関する大食押受
六一四	六二七師団の配属を解かれ六軍通信隊長（島田純雄中在）の指揮下に入る。
一三三	六百三十一師団長の指揮下に入る。
昭三、一、三九	佐世保に於て復員式を挙行

1001

72800

1954

独立無線隊九四小隊署丁

年月日

昭五、三、五
三、一〇

概

榮

編成下令

電信隊六連隊に於て編成完結

一、電信隊六連隊中隊附陸軍少尉山本五郎小隊長に補せらる。

二、編成

	人	馬	器
	員	匹	枚
一	將校	一	三
九	士官	八	号乙無線機二
四	兵	九	
九	計		
一	乘馬		
八	鞍馬		
九	計		
三			号甲
			〃

一三
一五

中支（出勤）の爲滿州牡丹江行出発
滿支國境山海關羅過

一五

三

り

四二九
八八

六九
三三

該日を以て関東軍より天那波遣軍總司令官に隷屬現載す。
漢口到着

該日を以て約軍自轄を脱しカ十二軍司令官に隷屬し電信カ十三連隊無線中隊
長の指揮下に入り漢口附近の警備勤務に暇す。

湘桂作戦カ一期参加

カ二期り

カ一、二期湘桂作戦編成表

砲	戦車カ三連隊	輜	人	負	器	枚	馬	匹
カ土軍中絶通信所	長 小隊長二八	砲 船 砲 隊	廣 沢 軍 曹 九	二 号 乙	無 線 機 一	三 号 甲	二 号 乙	三 号 甲
中 田 英 良 六	松 庄 佐 良 九							

中支内 1977

い

とろー

三
二四

一五
二四

電信ヲ十三連隊
酒巻前隊

小森山軍曹七

馬匹 九頭

才四十師團配属の才二十軍の指揮下に入る。

主力は南邦興漢打通作戦に参加し一師へ三ヶ分隊へは掃冊に前進、倏然才十
一軍中樞通信所に在りて湘桂作戦才三期に参加す。

編 成 表

配属部隊	人員	馬匹
才四十師團	長 小隊長 四一名	二号乙三号甲無線機 各一馬匹 二五頭
才十二軍中樞 通信所	同 副隊長一〇名	二号乙無線機一
同	同 中田包長 一名	三号甲

湘桂作戦の功に依り才十二軍司令官より賞詞を附与せる。
小隊主力南雄に入隊す

77830

1957

二四	小隊主力南雄に入城す
二五	才四〇師團配属の才二三軍の指揮下に入る。
二六	曲江に前進し南部奥漢打通作戦終了す。
二七	南部奥漢打通作戦の功に依り才二十軍司令官より賞状を附与さる。
二八	三南作戦に参加す。
二九	才十一軍通信隊残置中の才三十分隊は原隊復帰の爲探冊出發才二三軍の指揮下に入る。
三〇	進及中の二十分隊（沖田分隊）河竹に於て箭丘附近に配属せらる。
三一	進及中の一十分隊（阿部分隊）は玄東に到着
三二	玄東陸軍通信所に勤務す。
三三	小隊主力江内に向い出發
三四	玄東に於て阿部分隊復帰せしめらる。
三五	江内到着
三六	河竹沖田分隊復帰し小隊全員合致す。
三七	三南地区取返の爲江内出發 探冊に向ふ

11

2

784

1958

六二五	才十一軍の兼辰を脱し支那派遣隊直轄となる。
七五	贛州到着
〃	三南作戦終了
一〇	才四十師田配辰の終才二三軍の指揮下を脱し才六方面軍の指揮下に入り才二十軍の指揮下に入りしめらる。
七一九	軒進の為贛州出發南昌に向う
三〇	才四十師田配辰の終才二十軍の指揮下を脱し才三四軍の指揮下に入りしめらる。
八一	南昌に到着
一四	終戦
一九	南昌出發 蕪湖に向う
九一	才四十師田配辰の終才六方面軍及才三四軍の指揮下を脱し才大軍の指揮下に入る。
一五	蕪湖到着

785~

1959

三、二五	復員式除隊召集解除人員 五三名
三、二九	佐世保港上陸
三、二四	内地帰還の爲上海港出發
三、一四	上海に集結
略三、二〇	南京に移駐
三、二四	蔚報山に移駐

中支内例

支那派遣軍總司令部獨立無線才九五小隊恩歴

年月日

昭五三、一〇

概

要

昭五年軍令陸甲才十二号に依り滿州東安省密山県東安に於て編成完結

小隊長 陸軍少尉 楠 登

編成並に裝備概要左の如し

一名	(小隊長)	階級	下士	官	兵	人員	馬	匹	編馬	無線機
六名	兵科									
一	主計									
一	兵校									
一	衛生									
四	兵科									
一	輜重									
一	衛生									
五	合計									
一	騎馬									
八	駝									
九	計									
八	輜									
二	基									
二	基									

滿支國境(山海間)通過支那派遣軍總司令部の隷下に入る

第十一軍司令官の指揮下に入る

の隷下に入る

第二十軍司令官の指揮下に入る

三、一五
、三八
五、一〇
一三、三七

昭五、四、九 三、三、八	湘桂作戦中、中、中、三期参加
三、一、八	中、中、三軍司令官の指揮下に入る
三、一	三南作戦参加
七、五	
六、五	支那激進軍總司令官の隷下に入る
七、二	中、中、師団長の指揮下に入る
七、八	江西省贛東出発
八、一、四	平和詔勅發布
九、一、五	安徽省英湖到着、同地に駐留
一、五、二、三	、当塗原鞍山に駐留
昭三、三、二、四	内地帰還のため上海港出帆
三、三、五	佐世保港上陸
三、三、五	復員完結

カ
ト
8

カ
2

1301

288

1962

独立輜重兵才六二中隊畧歴

年月日	概要
昭二六、七、一八	編成下令
〃 八三	中隊長 青木真次
八三	編成完結
八三〇	滿州移駐の爲金沢屯營出発
八三三	守岳塔出発
八三七	大連塔上陸
八三九	閔東州現通燭
八三一	滿州口滨江省珠河県一面坡到着
八三一	附近の防犯
一、二、三〇	部隊人員半数を以て滿州国滨江省哈尔滨市
一、二、三〇	犇子海兵器廠發着防止強化作業に従事す

昭天二二七	1	<p>授駐の身一函被出殆</p> <p>浜江省哈尔滨市高子到着</p> <p>浜江省哈尔滨市高子附近防犯</p> <p>授駐の身高子出殆</p> <p>東滿總省虎林県境燧燧</p> <p>虎林県虎頭到着</p> <p>虎林県虎頭に於て口境整備並輸送業務に從事す。</p> <p>部隊人員の三分の一を以て鏡河県鏡河に於て築城作業に從事す。</p> <p>171号演習参加の身虎頭出殆</p> <p>虎林到着</p> <p>虎林出殆</p> <p>虎林県境燧燧</p> <p>滿支口境(山海關)燧燧</p>
天二二七	毛四九	
四九	四九	
四〇		
昭六四二一		
昭七四二一		
五八二七		
五五二八		
五五二〇		
昭五八二七		
八二八		
九二〇		
九二〇		
九二四		

7900

1964

患者輸送第七十七小隊履歴

年月日		概	
	昭五、四三	縮成及縮成完結	東部軍司令官
	四五	縮成管理官	国府台陸軍病院
	四五	縮成担任部隊	全 右
	四五	縮成地	昭一九、三、二四
	四五	縮成完結	縮成表別紙の如し
	四五	縮成	附圖の如し
	四五	行動要因	
	四五	行動	
	四五	縮成地出発	
	四五	門司港到着	
	四七	出港	

ノ
ト
19

2
2

2001

672

1966

日多ク

内司港出帆と同時に支那救護軍司令官隷下に入り、脱行事故なく揚子江浦口、
突慶九江を至て漢口に上陸す。

昭五、四二〇

漢口上陸

漢口に於て才十一軍司令官の隷下に入り、才五患者輸送部長の指揮下に入る。

湘桂作戦参加

昭五、五二五

漢口出発武昌を至て同年五、三〇 湖南省岳州に到着す。

六、一二

才五患者輸送部長令に基き一部を以て新市湘江岸白沙州靖港の患者を岳州才
一七七岳州病院に後送すると共に主力を以て長沙に前進の命せらる。同日十
五日岳州を出発す。

七、五

主力は長沙に到着し患者後送に任じたる一部も遂次到着す。

長沙に於ける患者輸送

主力を以て長沙野戦予備病院才二十一班の患者を岳州に一部を以て易俗河野
戦予備病院才三班の患者を各湘江水路に依り長沙に後送す此の同

778~

1967

七、三〇

血生船曹花輪一艦及同上再兵海老原七郎、患者輸送中湘江水路白沙洲對岸に於て變事を受け戦死す。

一〇、一

沖三船船輪船司令部漢口支部長の指揮下に入り十日一四日易俗河に前進の命を受く。

易俗河に於ける患者輸送

一〇、三

主力を以て易俗河に到着し野戦予備病院が二班（沖三班前進後は沖一ニ七兵站病院）の患者を主として湘陰患者輸送

が九班の崩壊せる患者療養所に、一泊を長沙野戦予備病院が三班に輸送す。

易俗及長沙よりの患者輸送人員

易俗河及長沙より湘江水路に依り長距離後送せる患者の総数 約一萬一千名

百名なり

転送及患者療養所開設

南方に転送準備を命せられ患者輸送に任じありし救護班を果結

昭三二一

1968

三一五

易俗河出落、湘江水路を衡陽に向い前進し

三二三

衡陽に到着す。二十軍の指揮下に入り同日ヲ十三野戦輸送司令部の指揮下に入る。

三二五

衡陽出落來陽を至る

三二八

湖南省碎石街に到着す。四師団野戦病院の開設せる患者療養所を継承し患者療養所を開設す。

收容患者約百名なり。

南作戦参加

三二八

碎石街出落豫昌を経て臨卅に到着、一三一師団の指揮下に入り

六一一

南雄に前進し。十四師団ヲ三三四聯隊長の指揮下に入る。

六一三

南雄出發意南に前進し同地の患者二五名を南雄患者輸送隊十四班の開設せる患者療養所に輸送す。

六二七

南冒に向う集中及患者後送
南雄出発

七三三

江西省贛州に到着し四十師田野嶽病院長の指揮に入る

七一五

同病院の患者二九二名を贛江水路に依り

六一四

南冒ヲ八七兵站病院に輸送す

此の同任生曹長 長江義一 贛江水路崇和上流約四折の地奥に於て空襲を受け
戦死す

六一五

更に東進せしむ六一七 終戦の命令を受け同日一九日南冒に帰還す

七二四

韶州を百六十兵站病院に於て任生上等兵長島浅七 戦病死す

終戦後の行動及患者輸送

六二四

南冒兵站病院の患者一千六百二十二名を贛江水路に依り九江兵站病院に輸送
す

六一

九江出發後徽省蕪湖に前進し一一一 高鞍山に到着す

昭三、三九	馬鞍山出發南京を経て
三一五	上海に到着す。
三二四	上海港出帆
三二五	佐世保に上陸復員す。
三二六	復員式
	復員人員
	将校 准士官一、下士官九、兵三八
	合計 隊長以下四三名なり。

～297～

5381

1971

陸軍大尉 吉野 隊長								隊長
合計	大	中	小	中	大	中	小	区分
			見習士官		軍医	軍医中尉	曹	長
	安藤 源太郎	負利 徳二	吉沢 周	松本 晋三	藤井 順一	上條 滋	石井 梅吉	
二	一	一	一	一	一	一	四	下級士官
三六	五	五	五	五	五	五	六	征出兵
五四	七	七	七	七	七	七	一一	計

編添表

患吉輸送才七七小隊

へつらへ

1972

患者輸送ヲ七十八小隊畧歴

中支内 20

11

12

年月日	概 要
昭五、三三〇	縮灰
四一	舞鶴車砲兵連隊に於て患者輸送ヲ七十八小隊縮減せりる。 支那派遣軍の隷下に入る。
四一九	瀨口福燭時を以てヲ十二軍の指揮下に入る。
五九	支那派遣軍の隷下を脱す。
六一〇	ヲ十一軍の隷下に入る。
四九	湘桂作戦ヲ一併参加
三九	ヲ二期り
三二〇	ヲ二十軍の指揮下に入る。
三二〇	南印粵漢打廻作戦参加

1973

昭和三十一

三三二

三三二

六七

六八

七五

七六

八七

八一七

九一三

三二六

三一九

三一九

才二十軍の指揮下を脱す

才二十三軍の指揮下に入る

韶州附近の警備

三南作戦参加

江西作戦参加

十四日附録の大部を揮す

九三 韶州地区に兵力集結

上海乗船

上海出帆

佐世保港上陸

便員定結

丁代小隊長 氏名

一代	氏名	在任期間	官	氏名
三	四五、三、大			平田 玄之助
			陸軍大尉	

昭和三十一

1974